

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第 58 号 / 2011 年 3 月 23 日発行

編集 / 医学研究科長

『10年遅れの授与式』

免疫・免疫治療学講座

伊 東 恭 悟 教授

大学院ニュースレターに2度目の雑感を載せる機会をいただきましたので、この20年間に当方教室にて研究した院生のなかで、10年遅れの授与式に臨んだS君や、通常の道ではなく回り道をした院生のことに思いを馳せます。

S君は当教室に来られた時にはすでに家族もちでした。学業同様に研究でも優れた成果をあげたために主論文は早々と投稿可能なレベルまで仕上がりました。そこで副論文のこともあり主論文に関連する研究をしてもらうことになりました。しかし、その頃から研究室には稀にしか来なくなり関連研究に支障をきたすようになりました。関連研究は他学から国内留学していたT君の主論文になる研究テーマでした。電話連絡するものの他人の研究の手伝いをする意義が感じられないというようなニュアンスのことを言われたという報告を受けました。T君への受けつぎがうまくいかないこともあり、当教室の方針にそぐわない旨と、このままでは学位(医学博士)にふさわしいとは言えない旨を伝えましたところ、学位は不要というお返事でした。

その後、S君は大学院満期退学となるや直ちに所属していた講座の関連病院のうち最も遠方の病院勤務を希望されて赴任されました。それから約10年間の経過した一昨年、私自身もあと5年で定年退職を迎える年齢になったために、学位を受け取ってもらえないか打診してみましたところ、快く了解してくれました。そして昨年には久留米医学会での発表・審査後に10年遅れの授与式に臨まれました。10年ぶりにお会いした時にはやや日焼けした立派な青年医師に成長しておられ、この10年間の努力や苦勞がしのばれ、私自身も感無量でした。10年前の論文でしたが内容の

しっかりしたものであり、受け答えも充実しておりました。

医学研究は一人が責任を持って行うものですが、周囲の支援や指導のない場合、通常大学院4年間では、久留米大学で設定している医学博士論文のレベル1(院生が実施した新しい発見を含む医学研究が査読制度の確立した医学雑誌に採択される)及びレベル2(同様の医学研究が院生を含む複数で実施され、それらの3編が査読制度の確立した医学雑誌に採択される)に到達することは至難のことです。そのため通常はスタッフや仲間から支援・指導をうけ、また高学年になったら低学年の仲間に対して支援・指導をしてレベル1と2を達成します。聡明なS君はそれらを自覚していたにもかかわらず、ほかの事柄で悩んでおられ、大学院の後期を継続できない事情が発生したと推測されました。その克服のために10年間の回り道をしたと思われます。10年間の長かったのか、また何を克服したのかはお聞きしていません。

Y君の大学院の2年間は、花見や送別会の際に活躍する以外は、たまに研究室においでになるのみでした。そこでこのままでは卒業できない旨を伝えたところ、研究室に来なくなりました。しかし、1年程経ってから、突然おいでになり「忘れ物をしたので戻ってきました」とすまなそうに言われ、急に研究の虫になってしまいました。教室の夏の旅行にも参加せず、ひたすらT細胞株の大量培養に取り組み、クリーンベンチ内にはいつも100枚以上のプレートが山積みされ、細胞培養室をほぼ独占しておりました。その成果があつて1年遅れで学位授与式に臨まれ、その後はある地方都市のご実家の近くで開業されました。とても評判がよく地元の患者さんから頼りにされてい

るとのことです。何を忘れてもどってきたのか、また、それが見つかったかどうかは、お聞きしていません。

もう一人、いまも回り道をしているO君がおります。連絡が途絶えているためいつも気になっております。もし、このレターをホームページ上で読まれたら、ご連絡ください。

樹よ なんとおまえは刈り込まれてしまったことか

なんと見なれぬ奇妙な姿でたっていることか！
おまえの心に反抗と意志のほかは何も残らぬほど

なんとおまえは幾百回となく苦しんだことだろう！

私もお前と同じだ (以下省略)

(ヘルマンヘッセ：「刈り込まれた柏の木」より、庭仕事の愉しみ、岡田朝雄訳、草思社)



《お知らせ》臨床看護学群臨床基礎看護論「感染看護専門看護師教育課程」が日本看護系大学協議会専門看護師教育課程として認定されました！！



平成21年度に開設した臨床看護学群臨床基礎看護論「感染看護専門看護師教育課程」が、日本看護系大学協議会より専門看護師教育課程として認定されました。

全国における「感染看護専門看護師教育課程」は5課程（平成22年4月）と少なく、西日本地区では2番目、九州では本課程がはじめて認定をうけることができました。

水準の高い看護ケアを効率よく提供するための知識や技術を備えた、卓越した看護実践能力を有するスペシャリストが養成され、一人でも多

くの感染看護専門看護師が輩出されることを期待します。

注) 本教育課程における授業科目及び修了要件は別に定めております。

詳しくはカリキュラムブック等でご確認ください。

区分	科目名	単位数	区分	科目名	単位数	
共通科目	看護倫理	2	臨床基礎看護論「感染看護専門看護師教育課程」	感染病態学特論	1	
	看護研究方法	1		感染看護学特論	2	
	看護政策論	2		感染看護学演習Ⅰ	2	
	看護理論	2		感染看護学援助論Ⅰ	2	
	コンサルテーション論	2		感染看護学援助論Ⅱ	2	
				感染看護疫学論	2	
				感染看護学演習Ⅱ	2	
				実習科目	感染看護学実習Ⅰ	4
					感染看護学実習Ⅱ	2

ティールーム



文部科学省 研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費） 「組織的な大学院教育改革推進プログラム」 「感染症看護に関する講演会」が開催されました！！

平成21年度「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に採択された久留米大学大学院医学研究科修士課程「感染制御看護師（ICN）養成プログラム」の事業展開の一環として2月24日に「感染症看護に関する講演会」を開催しました。

講師には、1978年より12年間日本国内ハンセン病療養所の看護に従事、1990年よりタイ国に滞在し、コンケン県シリントン病院のセルフケアクリニック、東北部コロニー（集落）の巡回診療に従事しハンセン病の末梢神経障害による後遺症（手指・足の脱落）の予防、看護に尽力、タイ国のハンセン病対策に大きく貢献されている阿部 春代先生と国立感染症研究所 FETP（実地疫学専門家養成コース）9期生として学修後、感染症の臨床や地域における感染症予防を含めた「性の健康」教育に関わっておられる堀 成美先生という国際的に活躍されておられるお二方をお招きしました。

阿部 春代先生には「国際看護の現場のケアの

特色—ハンセン病との関わりを通して—と題し、現地タイで実践されている看護の原点とも言うべき長年の取り組みを伺い、日本では既に終わった感染症との認識が高いなか、“看護”の在り方を再認識することができました。

一方、堀 成美先生には「感染症ナースのキャリアデザイン—感染症対策に必要なケアの視点—」と題し、看護師としては初めて国立感染症研究所のFETP修了生となられたご自身の体験を踏まえた、キャリアアップの提言をいただきました。

参加者の多くは看護師の方々だったこともあり、熱心に聞き入っておられ、大変有意義な時間であったと好評でした。

感染制御看護師（ICN）養成プログラムHP
感染看護に関するセミナー情報など、こちらからご確認いただけますのでぜひご覧下さい。

アドレス <http://icn.kurume-u.ac.jp/>



事務通信



◆博士課程・修士課程在籍学生の皆様へ

平成22年度成績報告並びに平成23年度履修希望調査実施について

博士課程・修士課程在籍学生の皆様を対象に、平成22年度の履修結果ならびに成績報告書を3月下旬から4月上旬に配布する予定です。併せて、各自の履修状況を踏まえ、平成23年度に履修する科目を決定していただき、履修登録を行うための「平成23年度履修希望調査」を実施する予定です。書類が届きましたら、速やかに当該年度の履修登録科目を決定し、医学部事務部教務課までご提出下さい。なお、平成23年度大学院カリキュラムは3月下旬に配布予定です。今しばらくお待ち下さい。

学生駐車場2次募集のお知らせ



大学院学生の皆様を対象に学生駐車場（7番駐車場）の2次募集を行います。申し込み希望者は下記に従って、期間内の手続きをお願いします。

1. 申込期間：平成23年4月8日（金）～15日（金）締切厳守
2. 募集台数：11台
希望者多数の場合は抽選です。
なお、通学距離が大学より片道2km未満の場合は申し込みできません。
3. 提出書類：駐車場使用許可願（※）・誓約書（※）・車検証コピー
※印の書類については、医学部教務課窓口で受け取られるか、大学院医学研究科 HP（<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>）在学生向け情報（学生掲示板）よりダウンロードして下さい。
4. 書類提出先：医学部事務部教務課：菅原まで
5. 使用開始時期：平成23年5月1日～平成24年3月31日
6. 使用許可通知：決定後、本人宛に通知します。
7. 許可証交付予定日：平成23年4月25日（月）～交付場所：愛恵会総務部 ※印鑑要
8. 料 金：20,600円

後期入学試験結果

2月15日に行われた後期入学試験の結果は下記のとおりとなっております。

	志願者数	受験者数	合格者数
修士課程	3名	3名	3名
博士課程	15名	15名	15名



編集後記

今年度、修士課程14名、博士課程22名が大学院を修了されました。次年度医学研究科には、約34名の新生を迎え、本学大学院修士課程は感染看護専門看護師養成拠点として、また大きな一歩を踏み出すこととなります。更なる大学院教育の充実を図り、魅力ある大学院づくりを目指してまいりますので、次年度もどうぞよろしくお願いいたします。（菅）